

21世紀COEプログラム「日本漢文学研究の世界的拠点の構築」から  
「日本漢文教育研究プログラム」へ

# 日本漢文学を 海外にむけて

21世紀COEプログラム

「日本漢文学研究の世界的拠点の構築」は、今年3月、5年間の研究支援期間が終了。

この研究成果に対し、文部科学省から大変高い評価を受けました。

このCOEプログラムの活動をいかし、さらに発展させるため、今年度発足した

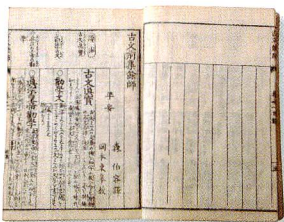
「日本漢文教育研究プログラム」では、

ヨーロッパ、アジア諸国を中心に、

海外で漢文講座を積極的に展開。

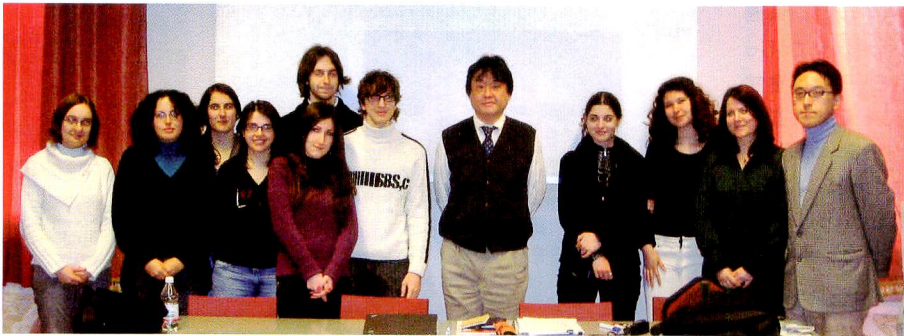
外国人研究者の基礎学力の養成として、

漢文訓読能力の開発を行っています。



古文前集餘師四卷  
(天保七年京大谷仁兵衛等刊本)

イタリアのカ・フォスカリ大学にて。右端、町准教授、中央が山辺講師。



二松學舎大学の海外漢文講座は、21世紀COEプログラム「日本漢文学研究の世界的拠点の構築」を実現するため、平成19年度から始まりました。

19年度、20年度に実施した海外講座は、ヨーロッパで4回、アジアで3回。これを引き継ぎ、今年度は、イギリスのオックスフォード大学、イタリアのカ・フォスカリ大学（ベネチア）、タイのチュラロンコーン大学（バンコク）、ベトナムのベトナム国家大学（ハノイ）で講義を実施、さらに、ドイツのハイデルベルク大学、イタリアのカ・フォスカリ大学では、インターネットによる講座も行っています。

現地で講義を行う町泉寿郎准教授は、「海外の日本研究機関には、日本漢文に高い関心を持つ方々が多く、漢文訓読を学ぶ機会を作ってほしいという要望がプログラムの当初からありました。外国人研究者に漢文訓読に向う意欲を持ってもらうためには、『論語』などの中国古典だけでなく、日本人の幅広い漢文テキストを用いることが重要です。海外での講座は、日本漢文学の範囲と研究方法を見直す絶好の機会になりました。」と、また、同じく講座を担当する山辺進講師は、「海外で日本の古典という仮名文学が中心で、漢文系の研究者は少なく、試行錯誤を重ねてきました。受講生からは、未知だった漢文訓読の世界に関心を持つようになった、熱心な説明のおかげで、難しい漢文もよくわかるようになったなどの感想が寄せられています。一日も早く母語で漢文を教えられる人材を育てることが目標です。」とその成果と課題を語っています。